

秦野市表丹沢野外活動センター

いろり棟（昔の生活学習館）



土間

いろりの間

畳の間

いろり棟（昔の生活学習館）について

表丹沢野外活動センターは、平成19年7月のリニューアルオープン以来、青少年の体験学習の場や里山保全団体の活動拠点として多くの皆様から親しまれてきました。

この度、昔の秦野の伝統的な生活を体験できる新たな体験学習施設として、いろり棟（昔の生活学習館）が完成し、供用開始となります。利用希望の方は、下記までご連絡ください。また、利用にあたっては、別紙「利用の手引き」をご確認ください。

供用開始日・・・平成29年6月1日(木)から

利用時間・・・午前10時から午後9時まで（見学は午後4時まで）

施設の概要・・・土間（10畳）、いろりの間（10畳）、畳の間（6畳）、縁側、台所、みんなのトイレなど
利用定員：15名程度 延床面積：76.51㎡

使用料・・・秦野市内の方 1時間 600円

秦野市外の方 1時間1200円

※研修棟に宿泊する方がいろり棟を専用使用する場合、無料となります。

※他の利用が無い場合、見学可（無料）

【予約・問い合わせ先】 秦野市表丹沢野外活動センター 電話:0463-75-0725

1 いろいろ棟（昔の生活学習館）の整備目的

表丹沢野外活動センターは、平成19年のリニューアル・オープン以来、青少年が自然と人とのふれあいを通じ、豊かな心情を養い、自立と協働の心を育てる場であるとともに里地里山保全の活動拠点として活用されていますが、利用者からさらなる活動の選択肢を増やし、機能の充実することが求められています。

また、平成32年に供用開始が予定されている新東名高速道路スマートインターチェンジに近いことから誘客のため、施設の充実をさらに推進することが必要です。

こうしたことを背景に、昔の伝統や不便な生活を知らない現代のこども達に対し、囲炉裏のある昔の生活空間を再現し、昔の生活のスタイルなどを感じてもらうことを主たる目的とした体験学習施設「いろいろ棟（昔の生活学習館）」を整備しました。

2 いろいろ棟（昔の生活学習館）の建物形状のコンセプト

関東の民家（農家）の建物形式の変遷を調べてみますと、代表的な間取りとして広間型三間（みつま）取りがあり、喰違四間（くいちがいよつま）取り、整形四間（せいけいよつま）取りへと形式が変化しています。

通常は、明治に入ると整形四間（せいけいよつま）取りと変化していきませんが、本市においては、秦野煙草の生産が建物形式にも影響が続いていたようで、大正にはいっても喰違四間（くいちがいよつま）取りの形式が続いていたようです。

このため、今回の古民家の建物形状は、明治から大正時代を想定して、本市に多く存在していた「喰違四間（くいちがいよつま）取り形式」を基本にプランニングしました。

なお規模についてですが、計画地の敷地状況などから考えると、全ての部屋（100㎡～120㎡）を再現することは困難なため、「喰違四間（くいちがいよつま）取り形式」の主な生活空間部分を再現するために最低限必要な建物規模（76.51㎡）としました。

当施設は、神奈川県川崎競馬組合の事業収益配分金を活用して整備されました。